

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											炭疽	1.ProMed20041105-0060(OIE) 2.OIE Disease Information 5Nov2004Vol17	フィンランドで発生したウシの炭疽の報告である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	1.厚生労働省ホームページ 2.農業情報研究所ホームページ 3.ProMed20041209-0030(EU,OIE)	BSE感染が確認された農場で死亡した94か月齢の牛から末梢神経組織の一部や副腎に異常プリオンたんぱく質が見つかったという報告である。
											炭疽	1.ProMed20041113-0080(国際SOS公衆衛生部)	インドネシアで炭疽に感染したウシの肉を摂取し、ヒトに感染したという報告である
											感染	1.ProMed20041127-0070(The Daily Star) 2.The Daily Star November23,2000	バングラデシュで原因不明の疾患により、ウシが約2000頭死亡したという報告である。
											口蹄疫	1.ProMed20041203-0010(Xinhua12月1日)	ウガンダでウシ2000頭以上が口蹄疫で死亡したという報告
											炭疽	1.ProMed20050112-0080(Russian news agency) 2.ProMed20050205-0050(Radio Kurs 2月4日)	ロシアKursk地区でのウシ炭疽症例の報告
											炭疽	1.ProMed20050116-0080(OIE) 2.OIE,DiseaseInformation 2005;18(2)	ペルーでウシの炭疽が発生し11頭が死亡したという報告。
											炭疽	1.ProMed20050120-0120(南アフリカ国立感染症研究所)2.IOL/SAPA http://www.iol.co.za	南アフリカで死亡したウシの肉を食べてヒトに炭疽が感染したとの報告。
											炭疽	1.ProMed20050120-0100(The Herald/All Africa Global Media1月13日) 2.ProMd20050127-0100(All Africa)	Mosvingo地域で炭疽患者70名以上が発生し死亡例もでている。炭疽に感染したウシからの食肉の疑いが出ている。
											口蹄疫	1.ProMed20050208-0120(Pakistan Link) 2.Pakistan Link, 7 Feb 2005	Lakki地域で口蹄疫によりウシ数百頭が死亡したという報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	1.PoMed20050205-0040(共同ニュース2月4日) 2.Eurosurveillance Weekly:10,ISS 6,10 February 2005 3.Infectious Diseases News Brief 2005年2月18日号	厚生労働省は、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者を確定、患者は1990年前後に約1か月間の英国への渡航歴があることを発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050216-0190(Reuters News)	BSE感染が確認された農場で死亡した94か月齢の牛から末梢神経組織の一部や副腎に異常プリオンたんぱく質が見つかったという報告である。
2005/4/18	50066	伊藤ライフサイエンス株式会社	日局トロンピン	トロンボプラスチン	ブタ肺	デンマーク	製造工程	有	無	無	E型肝炎	1.食安監発第1129001, 2004年11月29日付 2.厚生労働省ホームページH16年11月29日 3.IDWR2004.11.15~21	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											口蹄疫	1.ProMed20050123-0080(PNA) 2.YahooNews Aus&NZ Jan20 2005	9年ぶりにフィリピンでブタにおける口蹄疫が根絶された。
											感染	1.ProMed20050130-0010(New Straits Times1月29日)	Malacca州の農場で発生した120頭以上のブタ大量死原因はニパウイルスや豚コレラではなかった。
											感染	1.ProMed20050216-0410(New Kerala 2月4日)	Taj市において100頭以上のブタが大量死したが、原因は不明である
2005/4/19	50067	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ脾臓	カナダ、アメリカ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60	米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。
2005/4/19	50068	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ脾臓	カナダ、イタリア、アメリカ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60	米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/19	50069	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエそ抗毒素 ガスエそウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	アメリカ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12): 2156-60	米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。
2005/4/19	50070	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	CDC/MMWR 2005;53(51 & 52) 1198-1202	2003年、米国において鼠咬熱による2例の死亡例が発生した。1例は52歳女性のペットショップ店員で、救急外来受診の4日前に店のラットに人差し指を咬まれ、ICU入院から12時間後に死亡した。2例目は、9匹のラットを飼っている19歳女性で、ラットに咬まれたかどうかは不明であるが、病院に搬送されたときにすでに死亡していた
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005;307(18): 1107-10	慢性炎症状態がプリオンの自然及び医原性伝播に影響し拡大させる可能性を示唆した。
2005/4/19	50071	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	CDC/MMWR 2005;53(51 & 52) 1198-1202	2003年、米国において鼠咬熱による2例の死亡例が発生した。1例は52歳女性のペットショップ店員で、救急外来受診の4日前に店のラットに人差し指を咬まれ、ICU入院から12時間後に死亡した。2例目は、9匹のラットを飼っている19歳女性で、ラットに咬まれたかどうかは不明であるが、病院に搬送されたときにすでに死亡していた
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005;307(18): 1107-10	慢性炎症状態がプリオンの自然及び医原性伝播に影響し拡大させる可能性を示唆した。
2005/4/19	50072	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	インスリン	ウシ脾臓	米国	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H16年11月1日	BSE感染が確認された農場で死亡した94か月齢の牛から末梢神経組織の一部や副腎に異常プリオンたんぱく質が見つかったという報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/19	50073	バイエル薬品株式会社	オクトコグ アルファ (遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	有	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurol Sci 2004;25:122-9	新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)とウシ海綿状脳症(BSE)との関連性に関する総説。vCJDの伝播経路として一般的に捉えられているBSE感染ウシの中樞神経系組織が混入した組織の経口摂取についてさらなる研究の必要性を提示している。
											HIV	Science 2004;305:1243-4	米国における現在のAIDS患者背景に関する報告。アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系若年層、低所得層における感染率の高さが示されている。またいくつかのHIV感染対策案が示されている。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transmissible Spongiform Encephalopathies Advisory Committee 16th Meeting Oct 14,2004	FDAと伝染性海綿状脳症諮問委員会(TESEAC)との会合内容の要約。これまでの勧告の経緯と現行のFDAが定めるvCJD伝播リスク軽減措置の追加または改定措置の必要性に関する問い合わせ内容。
											HIV	FDA Guidance for industry October 2004	HIV-1、HIV-2およびHCVに対するNATIによるスクリーニング法に関するFDAのガイダンス最新版。
											レトロウイルス	Blood Products Advisory Committee 2004年10月21-22日	サル泡沫状ウイルス(SFV)および非ヒト霊長類の保有するウイルスがヒトに伝播するリスクについて、FDAから血液製剤諮問委員会(BPAC)への問い合わせ内容。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004;24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											重症急性呼吸器症候群	Vox Sanguinis 2004;87:302-3	重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体SARSコロナウイルスの熱不活化に関する研究報告。原料血漿中に存在するSARSコロナウイルスによる感染リスクは、60°C10分間の熱処理工程により極めて低くすることが可能であることを示唆している。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											伝染性紅斑	British Journal of Haematology 2004;128:401-4	静注用免疫グロブリン製剤の製造工程におけるヒトパルボウイルスB19の液状加熱処理による不活化に関する実験。同ウイルスはこの加熱処理により迅速に不活化されることが示された。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。感染ウシの出生農場産のウシのうち生存していたウシは屠殺されBSE陰性が確認された。BSE検査可能月齢に達していないウシは屠殺された。その他のウシは大半が既に死亡しているか屠殺されていた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Press Release 2005年2月25日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											伝染性紅斑	Electrophoresis 2005;26:28-34.	血漿分画製剤の製造工程に応用し得る新規のウイルス除去技術の紹介。イヌパルボウイルス(CVP)を用いた実験においてウイルスカ価が10000分の1に減少し、かつ分離後の血漿蛋白の純度および機能、収率は低下しないことが示された。
2005/4/19	50074	バイエル薬品株式会社	人血清アルブミン オクトコグ アルファ (遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurol Sci 2004;25:122-9	新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)とウシ海綿状脳症(BSE)との関連性に関する総説。vCJDの伝播経路として一般的に捉えられているBSE感染ウシの中樞神経系組織が混入した組織の経口摂取についてさらなる研究の必要性を提示している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	Science 2004;305:1243-4	米国における現在のAIDS患者背景に関する報告。アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系若年層、低所得層における感染率の高さが示されている。またいくつかのHIV感染対策案が示されている。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transmissible Spongiform Encephalopathies Advisory Committee 16th Meeting Oct 14, 2004	FDAと伝染性海綿状脳症諮問委員会(TESEAC)との会合内容の要約。これまでの勧告の経緯と現行のFDAが定めるvCJD伝播リスク軽減措置の追加または改定措置の必要性に関する問い合わせ内容。
											HIV	FDA Guidance for industry October 2004	HIV-1、HIV-2およびHCVIに対するNATによるスクリーニング法に関するFDAのガイダンス最新版。
											レトロウイルス	Blood Products Advisory Committee 2004年10月21-22日	サル泡沫状ウイルス(SFV)および非ヒト霊長類の保有するウイルスがヒトに伝播するリスクについて、FDAから血液製剤諮問委員会(BPAC)への問い合わせ内容。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											重症急性呼吸器症候群	Vox Sanguinis 2004;87:302-3	重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体SARSコロナウイルスの熱不活化に関する研究報告。原料血漿中に存在するSARSコロナウイルスによる感染リスクは、60°C10分間の熱処理工程により極めて低くすることが可能であることを示唆している。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反芻動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された
											伝染性紅斑	British Journal of Haematology 2004;128: 401-4	静注用免疫グロブリン製剤の製造工程におけるヒトバルボウイルスB19の液状加熱処理による不活化に関する実験。同ウイルスはこの加熱処理により迅速に不活化されることが示された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。感染ウシの出生農場産のウシのうち生存していたウシは屠殺されBSE陰性が確認された、BSE検査可能月齢に達していないウシは屠殺された。その他のウシは大半が既に死亡しているか屠殺されていた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Press Release 2005年2月25日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											伝染性紅斑	Electrophoresis 2005;26:28-34.	血漿分画製剤の製造工程に応用し得る新規のウイルス除去技術の紹介。イヌパルボウイルス(CVP)を用いた実験においてウイルス力価が10000分の1に減少し、かつ分離後の血漿蛋白の純度および機能、収率は低下しないことが示された。
2005/4/19	50075	バイエル薬品株式会社	加熱人血漿たん白オクトコグ アルファ (遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurol Sci 2004;25:122-9	新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)とウシ海綿状脳症(BSE)との関連性に関する総説。vCJDの伝播経路として一般的に捉えられているBSE感染ウシの中樞神経系組織が混入した組織の経口摂取についてさらなる研究の必要性を提示している。
											HIV	Science 2004;305:1243-4	米国における現在のAIDS患者背景に関する報告。アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系若年層、低所得層における感染率の高さが示されている。またいくつかのHIV感染対策案が示されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transmissible Spongiform Encephalopathies Advisory Committee 16th Meeting Oct 14, 2004	FDAと伝染性海綿状脳症諮問委員会(TESEAC)との会合内容の要約。これまでの勧告の経緯と現行のFDAが定めるvCJD伝播リスク軽減措置の追加または改定措置の必要性に関する問い合わせ内容。
											HIV	FDA Guidance for industry October 2004	HIV-1、HIV-2およびHCVに対するNATIによるスクリーニング法に関するFDAのガイダンス最新版。
											レトロウイルス	Blood Products Advisory Committee 2004年10月21-22日	サル泡沫状ウイルス(SFV)および非ヒト霊長類の保有するウイルスがヒトに伝播するリスクについて、FDAから血液製剤諮問委員会(BPAC)への問い合わせ内容。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											重症急性呼吸器症候群	Vox Sanguinis 2004;87:302-3	重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体SARSコロナウイルスの熱不活化に関する研究報告。原料血漿中に存在するSARSコロナウイルスによる感染リスクは、60℃10分間の熱処理工程により極めて低くすることが可能であることを示唆している。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反芻動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された
											伝染性紅斑	British Journal of Haematology 2004;128: 401-4	静注用免疫グロブリン製剤の製造工程におけるヒトパルボウイルスB19の液状加熱処理による不活化に関する実験。同ウイルスはこの加熱処理により迅速に不活化されることが示された。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。感染ウシの出生農場産のウシのうち生存していたウシは屠殺されBSE陰性が確認された、BSE検査可能月齢に達していないウシは屠殺された。その他のウシは大半が既に死亡しているか屠殺されていた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Press Release 2005年2月25日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											伝染性紅斑	Electrophoresis 2005;26:28-34.	血漿分画製剤の製造工程に応用し得る新規のウイルス除去技術の紹介。イヌパルボウイルス(CVP)を用いた実験においてウイルスカ価が10000分の1に減少し、かつ分離後の血漿蛋白の純度および機能、収率は低下しないことが示された。
2005/4/19	50076	バイエル薬品株式会社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurol Sci 2004;25:122-9	新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)とウシ海綿状脳症(BSE)との関連性に関する総説。vCJDの伝播経路として一般的に捉えられているBSE感染ウシの中枢神経系組織が混入した組織の経口摂取についてさらなる研究の必要性を提示している。
											HIV	Science 2004;305:1243-4	米国における現在のAIDS患者背景に関する報告。アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系若年層、低所得層における感染率の高さが示されている。またいくつかのHIV感染対策案が示されている。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transmissible Spongiform Encephalopathies Advisory Committee 16th Meeting Oct 14,2004	FDAと伝染性海綿状脳症諮問委員会(TESEAC)との会合内容の要約。これまでの勧告の経緯と現行のFDAが定めるvCJD伝播リスク軽減措置の追加または改定措置の必要性に関する問い合わせ内容。
											HIV	FDA Guidance for industry October 2004	HIV-1、HIV-2およびHCVに対するNATIによるスクリーニング法に関するFDAのガイダンス最新版。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											レトロウイルス	Blood Products Advisory Committee 2004年10月21-22日	サル泡沫状ウイルス(SFV)および非ヒト霊長類の保有するウイルスがヒトに伝播するリスクについて、FDAから血液製剤諮問委員会(BPAC)への問い合わせ内容。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											重症急性呼吸器症候群	Vox Sanguinis 2004;87:302-3	重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体SARSコロナウイルスの熱不活化に関する研究報告。原料血漿中に存在するSARSコロナウイルスによる感染リスクは、60℃10分間の熱処理工程により極めて低くすることが可能であることを示唆している。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反芻動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された
											伝染性紅斑	British Journal of Haematology 2004;128: 401-4	静注用免疫グロブリン製剤の製造工程におけるヒトバルボウイルスB19の液状加熱処理による不活化に関する実験。同ウイルスはこの加熱処理により迅速に不活化されることが示された。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。感染ウシの出生農場産のウシのうち生存していたウシは屠殺されBSE陰性が確認された、BSE検査可能月齢に達していないウシは屠殺された。その他のウシは大半が既に死亡しているか屠殺されていた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Press Release 2005年2月25日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
											伝染性紅斑	Electrophoresis 2005;26:28-34.	血漿分画製剤の製造工程に応用し得る新規のウイルス除去技術の紹介。イヌパルボウイルス(CVP)を用いた実験においてウイルスカ価が10000分の1に減少し、かつ分離後の血漿蛋白の純度および機能、収率は低下しないことが示された。
2005/4/19	50077	バイエル薬品株式会社	オクトコグ アルファ (遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイパー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反芻動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された
											BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。感染ウシの出生農場産のウシのうち生存していたウシは屠殺されBSE陰性が確認された、BSE検査可能月齢に達していないウシは屠殺された。その他のウシは大半が既に死亡しているか屠殺されていた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Press Release 2005年2月25日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっていることが報告された。
2005/5/1	50078	大洋薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	CDC/MMWR 2005;54(07):170-3	2001-2004年の間にワイオミング州でヒトでの野兔病感染症例報告が増加した。
											トキソプラズマ	Veterinary Parasitology 2004;123:265-70	1992-2003年の間にスペインの5つの地域から集めた野性ウサギの血清を調べた報告。野兔のT. gondiiの感染保有率に影響する要因として地域性がある。
2005/4/20	50079	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	Veterinary Microbiology 2004;104:113-7	ブタTTVはブタの臓器や細胞の異種移植によりヒトへ感染する。ブタTTVはブタでは非病原性であるが、免疫抑制異種移植レシピアントで病原性になる可能性がある。したがって異種移植のブタドナーをスクリーニングすることが重要である。
2005/4/20	50080	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	ウマコラーゲン	ウマアキレス腱	フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	ProMed20041008-2759 (フランス食品安全局)	2004年8月28日(疫学第35週)に、ウマ2頭のWNV感染疑い(臨床診断)例が、フランス南東部Camargue地域で獣医師により確認された。9月30日までにウマの死亡例4例と疑い症例37頭が報告された。
2005/4/20	50081	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	ヒトフィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	無	無	無			
2005/4/20	50082	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	ヒトアルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	添加物	無	無	無			
2005/4/20	50083	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	トロンボプラスチン	ウサギ脳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/4/20	50084	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	アプロチニン	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/4/20	50085	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	無	無	無			
2005/4/20	50086	ZLBベーリング株式会社	フィブリノゲン配合剤	トロンビン画分	ウシ血液	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/18	50087	日本化薬株式会社	BCG・コンノート株	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	牛型結核菌生菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
2005/4/21	50088	武田薬品工業株式会社	注射用インターフェロニンアルファ-2a(遺伝子組換え) 注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 22 Jul 2004	輸血制限対象として、新たに受血歴不明の供血者と受血経験のある血漿成分提供者を追加。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004;364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃。筋肉等からはPrPresga検出されなかったが、脾臓に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
											HIV	Vox Sanguinis 2004;86:171-7	血液製剤のミニプール核酸増幅検査(MP-NAT)が導入されてから初めての輸血によるHIV感染事例。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年10月22日	仏国で8例目のvCJD患者が報告された。仏国初の供血経験者であり、患者由来の原料が血漿分画製剤の製造に使用されていたが、血漿分画製剤による伝播の証拠はないと述べている。
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											B型肝炎	共同通信 2004年12月17日(H16年12月17日血液事業部会より)	HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け、輸血によりHBVを伝播した。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
2005/4/21	50089	武田薬品工業株式会社	注射用インターフェロニンアルファ2a(遺伝子組換え)	マウスの腹水由来成分	マウスの腹水	アメリカ	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/21	50090	武田薬品工業株式会社	注射用インターフェロナルファ2a(遺伝子組換え) 注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え9)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/6/3	50091	興和株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	製造工程	無	無	無			
2005/4/22	50092	住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	加熱人血漿たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
2005/4/22	50093	住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞	-	製造工程	無	無	無			
2005/4/22	50094	住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/4/22	50095	住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/4/22	50096	住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清由来成分	ヒツジ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/4/22	50097	住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵	-	製造工程	無	無	無			
2005/4/22	50098	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	有	無	無	ハンタウイルス	CDC 2004年9月14日	保有宿主(シカネズミなど)、伝播方法(米国においてHPSは飛沫感染、ヒトからヒトへは伝播しない)およびハンタウイルス性肺症候群に関するQ&A
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38):1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Associated Press 2004年10月14日	連邦保健担当官は、2004年11月2日に、汚染された血液輸血により変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に罹患した可能性が高い英国で2例目の患者報告を受けた。死因は別の病状だが検査で保菌判明。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	Associated Press 2004年11月18日	米国で2例目となるBSE(ウシ海綿状脳症)症例が確認される可能性が出ているが、農務省当局は2004年11月18日、問題のウシは食物連鎖(食糧・飼料)からは除外されていると発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、膵臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Medical News Today 2005年2月9日	Pall社は新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。今春ヨーロッパで市販される予定のLeukotrap Affinity Prion Reduction Filter(白血球吸着親和性プリオン除去フィルター)は、最も汎用される輸血用成分である赤血球から感染性異常プリオンを除去する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005 ;11(5)	2005年2月8日、FDAのTSE諮問委員会(TSEAC)の会議が開催された。諮問委員会はフランスにおいて1980年以降に輸血を受けた米国の献血者の据え置きをするようFDAに勧告することを決定し、他のヨーロッパ諸国には勧告を拡大すべきでないことを合意した。
2005/4/22	50099	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	ハンタウイルス	CDC 2004年9月14日	保有宿主(シカネズミなど)、伝播方法(米国においてHPSは飛沫感染、ヒトからヒトへは伝播しない)およびハンタウイルス性肺症候群に関するQ&A
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38):1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Associated Press 2004年10月14日	連邦保健担当官は、2004年11月2日に、汚染された血液輸血により変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に罹患した可能性が高い英国で2例目の患者報告を受けた。死因は別の病状だが検査で保菌判明。
											BSE	Associated Press 2004年11月18日	米国で2例目となるBSE(ウシ海綿状脳症)症例が確認される可能性が出ているが、農務省当局は2004年11月18日、問題のウシは食物連鎖(食糧・飼料)からは除外されていると発表した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Medical News Today 2005年2月9日	Pall社は新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。今春ヨーロッパで市販される予定のLeukotrap Affinity Prion Reduction Filter(白血球吸着親和性プリオン除去フィルター)は、最も汎用される輸血用成分である赤血球から感染性異常プリオンを除去する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005 :11(5)	2005年2月8日、FDAのTSE諮問委員会(TSEAC)の会議が開催された。諮問委員会はフランスにおいて1980年以降に輸血を受けた米国の献血者の掘え置きをするようFDAに勧告することを決定し、他のヨーロッパ諸国には勧告を拡大すべきでないことを合意した。
2005/4/22	50100	田辺製薬株式会社	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ脾臓	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ハンタウイルス	CDC 2004年9月14日	保有宿主(シカネズミなど)、伝播方法(米国においてHPSは飛沫感染、ヒトからヒトへは伝播しない)およびハンタウイルス性肺炎症候群に関するQ&A
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38):1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Associated Press 2004年10月14日	連邦保健担当官は、2004年11月2日に、汚染された血液輸血により変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に罹患した可能性が高い英国で2例目の患者報告を受けた。死因は別の病状だが検査で保菌判明。
											BSE	Associated Press 2004年11月18日	米国で2例目となるBSE(ウシ海綿状脳症)症例が確認される可能性が出ているが、農務省当局は2004年11月18日、問題のウシは食物連鎖(食糧・飼料)からは除外されていると発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。